

沖縄伊江島方言の文の組み立て

—イージマグチの保存・継承のために—

生 塩 睦 子

1. は じ め に

筆者は、1964年以来、消滅寸前の危機的状況にある沖縄北部伊江島方言の調査・研究を続けている。近年は、その記録にとどまることなく、島の貴重な文化財伊江島方言の保存・継承のために、『伊江島のことわざ』集と『伊江島方言の文法』書の刊行を目指して、伊江島の老年層の方々と共に取り組んでいる。

本稿は、その文法書のはじめ部分である「文の組み立て」の、構成要素それぞれの働きを、現代日本語に伊江島方言を対照させた形で提示し、体系的にまとめていこうとするものである。

2. 文を組み立てる要素

文を構成する要素には、主語、述語、補語（直接補語・間接補語）、状況語、修飾語（連用修飾語・連体修飾語）、独立語があって、それぞれの働きをしている。

まず、伊江島の民話「マーガの由来」^{*1}から抜粋した文で各構成要素を示す。

あらまあ何と、	清水が	こんこんと	湧き出ていた。	←現代日本語		
アキチャビヨ、	チュラムズィス	*2 ツクワンクワン	ワチイジティウウタン。	←伊江島方言		
独立語	主語	連用修飾語	述語	← 文の構成要素		
感動詞	名詞－格助詞	副詞	動詞	← 使われている品詞		
役人たちは	村の	人達を	集めて、	大きな	井戸を	造られた。
ヤクニンチャヤ	ムラス	ツチュンチャ	アツイミティ、	イチャーペール	ハー	シュガラタン。
主語	連体修飾語	直接補語	述語	連体修飾語	直接補語	述語
名詞－副助詞	名詞－格助詞	名詞	動詞	連体詞	名詞	動詞
マーガは	その	井戸の	名前だ。			
マーガヤ	ウス	ハース	ナー ヤン。			
主語	連体修飾語	連体修飾語	名詞述語			
名詞－副助詞	連体詞	名詞－格助詞	名詞－助動詞			
村中の	娘たちは	朝夕	水を	汲みに	マーガへ	行った。
ムラジュース	キナウンチャヤ	アサユー	ミズィ	クニンジャ	マーガンカイ	イヂャン。
連体修飾語	主語	状況語	直接補語	状況語	間接補語	述語
名詞－格助詞	名詞－副助詞	名詞	名詞	動詞－格助詞	名詞－格助詞	動詞
そして、	金物の	釣瓶で	水を	汲んでいた。		
アンシ、	トゥータンガニヌ	スィーシ	ミズィ	*3 クディウウタン。		
独立語	連体修飾語	状況語	直接補語	述語		
接統詞	名詞－格助詞	名詞－格助詞	名詞	動詞		

* 1 生塩睦子監修 (2014)『伊江島の民話 第1集』伊江村教育委員会刊

* 2 「ツクワ」のように「ツ」で始まる音は、まず喉に力を入れて一瞬息を止め、次の文字「クワ」を強く声出しする音。

* 3 「ウウ」は、唇をすぼめてゆっくり「ウ」と声を出す音。

3. 主語と述語

主語と述語は、文を成り立たせるための骨組みとなる大切な要素で、述語は人やものの動き、状態、存在、性質などを表す。その動きや状態や性質の持ち主を表す要素が主語である。

すなわち、主語は「何がどうする」・「何はどんなだ」・「何は何だ」の

「何が/は」にあたる要素で、「どうする」・「どんなだ」・「何だ」にあたる要素が述語である。

3.1 述語の形

述語は、主語「何が・何は」について、「どうする」・「どんなだ」・「なんだ」と説明する部分で、「どうする」を説明するのが動詞、「どんなだ」を説明するのが形容詞、「何だ」を説明するのが名詞である。

動詞文：雨が降る。 アミヌ プユン。

花子が行く。 ハナコー イチユン。

太郎が酒を飲む。 タラー サキ ヌニユン。

形容詞文：値段が高い。 デース タカサ。

私は忙しい。 ワー イチユナーシャ。

名詞文：彼は教員だ。 アリヤ チョーイン ヤン。

3.1.1 動詞述語の形

動詞の基本形は終止形と呼ばれる、辞書に掲載されている語形で、「降る：プユン」・「行く：イチユン」・「飲む：ヌニユン」のように、現代日本語では末尾が「う」段音、伊江島方言では「ーユン・-ユン」で終わる形である。

この動詞基本形は、話し相手に対する伝達目的別（伝える・尋ねる・行動を要求する等）に、話し相手が対等の人か・目上の人か、現在のこと（今あるいは今からのこと）か・過去のことか、肯定する言い方か・否定する言い方で語形変化する。

本稿では、現代日本語と異なる表現の仕方をする〈尋ね形〉について、伊江島方言動詞の述語変化語形を述べる。

尋ねる語形は、「はい（肯定）」か「いいえ（否定）」で答えてもらう一般尋ね形と、疑問詞で求める情報を答えてもらう疑問詞尋ね形とで語形が異なる。

一般尋ね形：花子は名護へ行くか。ハナコー ナグンカイ イチュミ。

疑問詞尋ね形：誰が名護に行くか。ター ナグンカイ イチョー。

一般尋ね形の「イチュミ」は、動詞「行く：イチュン」のン脱落形「イチュ」に尋ねる意の「ミ」（ムキからの融合変化形）が付いた語形、疑問詞尋ね形の「イチョー」は、「イチュ」に疑問詞が先行したときの尋ねる意の終助詞「ガ」が融合変化した語形である。

また、否定形の一般尋ね形は「行かないか：イチャンニ」で、否定形「行かない：イチャン」に「ニ」が付いた語形、疑問詞尋ね形の「（誰が）行かないか：イチャンナヨー」は、否定形に「ナヨー（なる：ナユンの疑問詞尋ね語形）」が付いた語形である。

過去形の一般尋ね形は「行ったか：イヂー」で、「行って：イヂ」に疑問の意の終助詞「キ」が付いた語形、疑問詞尋ね形は「（誰が）行ったか：イヂャー」で、「行って：イヂ」に「ガ」が融合変化した語形である。

以下、動詞述語の形は「飲む：ヌニユン」を例にとって説明していく。

まず、普通体（話し相手が友人など、気を遣う必要のない場で使われる文体）の肯定・否定両表現の尋ね形変化語形を、現在形か過去形かに分けて表1に示す。一般尋ね形は「一般」、疑問詞尋ね形は「疑詞」と表す。

尋ね形の丁寧体は、話し相手によって敬う度合いが低い〈敬1〉と高い

表1 普通体動詞述語尋ね形

現在形

肯定形	一般：太郎は酒を飲むか。タラー サキ <u>ヌニユミ</u> 。
	疑詞：次郎は誰と酒を飲むか。ジラー <u>タートウ</u> サキ <u>ヌニヨー</u> 。
否定形	一般：太郎は酒を飲まないか。タラー サキ <u>ヌマンニ</u> 。
	疑詞：次郎は <u>どの</u> 酒を飲まないか。ジラー <u>ヌース</u> サキ <u>ヌマンナヨー</u> 。

過去形

肯定形	一般：太郎は酒を飲んだか。タラー サキ <u>ヌディー</u> 。
	疑詞：次郎は誰と酒を飲んだか。ジラー <u>タートウ</u> サキ <u>ヌダー</u> 。
否定形	一般：太郎は酒を飲まなかったか。タラー サキ <u>ヌマンナディー</u> 。
	疑詞：次郎は <u>どの</u> 酒を飲まなかったか。ジラー <u>ヌース</u> サキ <u>ヌマンナター</u> 。

〈敬2〉とで語形が異なる。〈敬1〉とは対称代名詞が「ウガ（あなた）」で表される人で、親族の年長者やあまり付き合いのない年長の島人である。〈敬2〉とは対称代名詞が「ウマ・ウンジュ（貴方様）」で表される人で、一段高い目上の人（中央から派遣されてきた役人や島人のうち役場勤めの役職者や教員など）をいう。方言で生活していた時代、伝統を重んじる家庭では子供は親や叔父などにはウガ格で、祖父母にはウマ格の言葉使いをなさいと躰けられた。

また尋ね形の丁寧体は、一般的なことや相手側以外のことを尋ねる場合と、相手側自身のことを相手側に尋ねる場合とで語形が異なる。相手側のこと以外、一般的なことや第三者や自分側のことを相手側に尋ねる場合は丁寧さを表わす語形を使う。〈敬1〉の相手には、穏やかに尋ねる意の終助詞「カヤ・ヤ」を、変化語形末尾音節「ン」が脱落した語形に付ける。〈敬2〉の相手には、現代日本語助動詞の「-ます」にあたる「-ヤビン・-ヤビン」を付けた語形を使う。

相手側のことを相手自身に尋ねる場合は、相手の動作に尊敬の意を表す語形を使う。〈敬1〉の相手には「-エン」（飲まれる：ヌニエン）の変化語形を使い、〈敬2〉の相手には「-ンシエン」（お飲みになる：ヌンシエン）を使って表わす。両形とも、丁寧の意を表す助動詞「-ます」にあたる「-ヤビン・-ヤビン」は付かない。

丁寧体の可否尋ね形と疑問詞尋ね形「飲む：ヌニユン」の変化語形を示す。表2が相手側以外のことを尋ねる場合の現在形と過去形、表3が相手

表2 相手側以外の動作を尋ねる場合の丁寧体動詞述語形

現在形

肯定形	敬1	一般：牛は酒を飲みますか。 ウシヤ サキ <u>ヌニユカヤ</u> 。
		疑詞：太郎は <u>どこで</u> 酒を <u>飲み</u> ますか。 タラー <u>ダーナイティ</u> サキ <u>ヌニョーヤ</u> 。
	敬2	一般：牛がお酒を <u>飲む</u> のでございますか。 ウシヌ サキ <u>ヌニヤビカヤ</u> 。
		疑詞：次郎は <u>誰と</u> お酒を <u>飲む</u> のでございますか。 ジラー <u>タートウ</u> サキ <u>ヌニヤペーヤ</u> 。

否定形	敬 1	一般：牛は酒を飲みませんか。 ウシヤ サキ <u>ヌマンカヤ</u> 。
		疑詞：誰がお酒を飲みませんか。 <u>ター</u> サキ <u>ヌマンナヨーヤ</u> 。
	敬 2	一般：太郎がお酒を飲まないでございますか。 タラー サキ <u>ヌニャビランニ</u> 。
		疑詞： <u>なぜ</u> あのおじい様はお酒をお飲みにならないでしょうか。 <u>ヌーディチ</u> アマンヤース ウブシュヤ サキ <u>ヌニャビランナヨー</u> 。

過去形

肯定形	敬 1	一般：牛は酒を飲みましたか。 ウシヤ サキ <u>ヌダカヤ</u> 。
		疑詞：太郎は <u>どこ</u> で酒を飲みましたか。 タラー <u>ダーナイティ</u> サキ <u>ヌダーヤ</u> 。
	敬 2	一般：牛がお酒を飲んだのでございますか。 ウシヌ サキ <u>ヌニャビタカヤ</u> 。
		疑詞：次郎は <u>誰</u> とお酒を飲んだのでございますか。 ジラー <u>タートウ</u> サキ <u>ヌニャビターヤ</u> 。
否定形	敬 1	一般：牛は酒を飲まなかったのですか。 ウシヤ サキ <u>ヌマンナタカヤ</u> 。
		疑詞：誰がお酒を飲まなかったのですか。 <u>ター</u> サキ <u>ヌマンナターヤ</u> 。
	敬 2	一般：太郎がお酒を飲まなかったのでございますか。 タラー サキ <u>ヌニャビランナタカヤ</u> 。
		疑詞： <u>どなた</u> がお酒をお飲みにならなかったでございますか。 <u>タンダル</u> サキ <u>ヌニャビランナター</u> 。

表 3 相手側自身の動作を尋ねる場合の丁寧体動詞述語形

現在形

肯定形	敬 1	一般：あなたはお酒を飲まれますか。 ウガヤ サキ <u>ヌニエーミ</u> 。
		疑詞：あなたは <u>どこ</u> で酒を飲まれますか。 ウガヤ <u>ダーナイティ</u> サキ <u>ヌニエー</u> 。
	敬 2	一般：貴方様もお酒をお飲みになりますか。 ウマン サキ <u>ヌニンシエミ</u> 。
		疑詞：貴方様は <u>どの</u> お酒をお飲みになりますか。 ウマヤ <u>ヌース</u> サキ <u>ヌニンシエー</u> 。
否定形	敬 1	一般：あなたはお酒を飲まれませんか。 ウガヤ サキ <u>ヌニョーランニ</u> 。
		疑詞：あなたは <u>どの</u> お酒を飲まれませんか。 ウガヤ <u>ヌース</u> サキ <u>ヌニョーランナヨー</u> 。
	敬 2	一般：貴方様はお酒をお飲みにならないのですか。 ウマヤ サキ <u>ヌニンシヨランニ</u> 。
		疑詞：貴方様は <u>どの</u> お酒をお飲みにならないのですか。 ウマヤ <u>ヌース</u> サキ <u>ヌニンシヨランランナヨー</u> 。

過去形

肯定形	敬 1	一般：あなたはお酒を飲まれましたか。 ウガヤ サキ <u>ヌニョーチー</u> 。
		疑詞：あなたは <u>どこ</u> で <u>お酒</u> を <u>飲</u> まれましたか。 ウガヤ <u>ダーナイティ</u> サキ <u>ヌニョーチヤー</u> 。
	敬 2	一般：貴方様が昨日お酒をお飲みになったのですか。 ウマヤ チニユ サキ <u>ヌニンショチー</u> 。
		疑詞：貴方様は <u>誰</u> と <u>お酒</u> をお飲みになったのですか。 ウマヤ <u>タートウ</u> サキ <u>ヌニンショチャー</u> 。
否定形	敬 1	一般：あなたはお酒を <u>飲</u> まませんでしたか。 ウガヤ サキ <u>ヌニョーランナティー</u> 。
		疑詞：あなたは <u>どの</u> お酒を <u>飲</u> まなかったですか。 ウガヤ <u>ヌーヌ</u> サキ <u>ヌニョーランナター</u> 。
	敬 2	一般：貴方様は昨日お酒をお飲みにならなかったのですか。 ウマヤ チニユ サキ <u>ヌニンショランナティー</u> 。
		疑詞： <u>なぜ</u> 貴方様は昨日お酒をお飲みにならなかったのですか。 <u>ヌーディチ</u> ウマヤ チニユ サキ <u>ヌニンショランナター</u> 。

側自身のことを尋ねる場合の現在形と過去形である。

表3の相手側自身のことを尋ねる変化語形は、伝える文でも敬意を払う人の動作や状態に相手に応じて〈敬1〉の語形と〈敬2〉の語形とを区別して使われる。次の用例は1964年12月調査時のものである。

- ・木製煙草入れは伊地知の人が作られた。

キープゾー イジチヌ ッチュヌ スイコエタン。

- ・パーチンは私たちの島にはあまりいらっしゃらなかった。

パーチノー ワッタ シマナイテー ドウク イモランナタン。

「スイコエタン」は「作る：スイコユン」の〈敬1〉肯定過去形、「イモランナタン」は尊敬の意の敬語動詞「いらっしゃる：イメン」の〈敬2〉否定過去形である。パーチン（親雲上）は旧藩時代の一村を領した位階名。

3.1.2 形容詞述語の形

形容詞述語は、「何はどんなだ」の「どんなだ」で、人や物事の性質や状態を表す。

形容詞の基本形は、「高い」は「タカサ」と「タカサアン」の両形があ

るが、「アン」の付く形は内省的にごく丁寧な発音をするときにしか使われない。意味の差は全くなく、両形は同じ陳述力がある。当方言では、「アン」の付かない形を形容詞基本形としてよいと考える。

伊江島方言の形容詞基本形は、「―サ」〈サ類〉・「―シャ」〈シャ類〉・「―ツァ」〈ツァ類〉の3種類がある。

〈サ類〉は「甘い：アマサ」「軽い：ハルサ」「柔らかい：ヤッパラ―サ」「もどかしい：マンスイ―サ」など、現代日本語の〈く活用形容詞〉が含まれる（例外は「厚い：アツイシャ」）。概して客観的な性質や状態を表す語が多い。〈シャ類〉は、「忙しい：イチユナーシャ」「恥ずかしい：パズィカーシャ」「珍しい：ティルマーシャ」など、現代日本語の〈しく活用形容詞〉が含まれる。概して主観的な感情や感覚を表す語が多いが、客観的な性質や状態を表す語も少なくない。〈ツァ類〉の形容詞は、「悪い：ワツツァ」「安い：ヤツツァ」「やかましい：ヤガマツツァ」など数語である。〈サ類〉〈シャ類〉からの音節脱落による転成ではないかと考えられる。

形容詞述語の形は、基本形に動詞「アン」の変化語形によって動詞述語に準じた語形変化をするが、普通体の否定現在形「高くない」は「タカサネン」である。大正時代生まれの方々までは「タカクネン」とも言われていた。

丁寧体で使われる形容詞述語形は、人の性質・状態を表す形容詞として使われる場合と、人以外の物事の性質・状態を表す形容詞として使われる場合とで異なった語形になる。形容詞が物事の性質・状態を表す場合は「アヤピン」の変化語形が使われ、形容詞が人の性質・状態を表す場合は「アエン・アンセン」の変化語形が使われる。これは動詞述語形の尋ね形が、相手側以外のことを尋ねる場合と相手側自身のことを尋ねる場合とで異なることと同じである。

ここでは、尋ね形丁寧体の〈敬1〉〈敬2〉変化語形を示す。物事の状態を表わす例として「高い：タカサ」、話し相手の状態を表わす形容詞例として「忙しい：イチユナーシャ」の変化語形を示す。

表4 物事の状態を尋ねる場合の丁寧体形容詞述語形

現在形

肯定形	敬 1	一般：値段が高いですか。 デース <u>タカサアカヤ</u> 。
		疑詞： <u>どれが高い</u> ですか。 <u>ズイロー</u> <u>タカサアヨーヤ</u> 。
	敬 2	一般：値段が高うございますか。 デース <u>タカサアヤビカヤ</u> 。
		疑詞： <u>どれが高う</u> ございますか。 <u>ズイロー</u> <u>タカサアヤベー</u> 。
否定形	敬 1	一般：値段が高くないですか。 デース <u>タカサネンカヤ</u> 。
		疑詞： <u>どれが高くない</u> ですか。 <u>ズイロー</u> <u>タカサネンナヨー</u> 。
	敬 2	一般：値段が高うございせんか。 デース <u>タカサアヤピランニ</u> 。
		疑詞： <u>どれが高う</u> ございせんか。 <u>ズイロー</u> <u>タカサネンナヤベー</u> 。

過去形

肯定形	敬 1	一般：値段が高かったですか。 デース <u>タカサアタカヤ</u> 。
		疑詞： <u>どれが高かった</u> ですか。 <u>ズイロー</u> <u>タカサアターヤ</u> 。
	敬 2	一般：値段が高うございましたか。 デース <u>タカサアヤビティー</u> 。
		疑詞： <u>どれが高う</u> ございましたか。 <u>ズイロー</u> <u>タカサアヤビター</u> 。
否定形	敬 1	一般：値段が高くなかったですか。 デース <u>タカサネンナタカヤ</u> 。
		疑詞： <u>どれが高くなかった</u> ですか。 <u>ズイロー</u> <u>タカサネンナター</u> 。
	敬 2	一般：値段が高うございせんでしたか。 デース <u>タカサアヤピランナティー</u> 。
		疑詞： <u>どれが高う</u> ございせんでしたか。 <u>ズイロー</u> <u>タカサアヤピランナター</u> 。

表5 話し相手の状態を尋ねる場合の丁寧体形容詞述語形

現在形

肯定形	敬 1	一般：あなたはお忙しいですか。 ウガヤ <u>イチユナーシャアエミ</u> 。
		疑詞：あなたは <u>いつ頃</u> お忙しいですか。 ウガヤ <u>イツイマングラ</u> <u>イチユナーシャアエーヤ</u> 。
	敬 2	一般：貴方様はお忙しくていらっしゃる습니까。 ウマヤ <u>イチユナーシャアンシエミ</u> 。
		疑詞：貴方様は <u>いつ頃</u> お忙しくていらっしゃる습니까。 ウマヤ <u>イツイマングラ</u> <u>イチユナーシャアンシエー</u> 。
否定形	敬 1	一般：あなたはお忙しくないですか。 ウガヤ <u>イチユナーシャアヨーランニ</u> 。
		疑詞：あなたは <u>いつ頃</u> お忙しくないですか。 ウガヤ <u>イツイマングラ</u> <u>イチユナーシャアヨランナヨー</u> 。
	敬 2	一般：貴方様はお忙しくてなくていらっしゃる습니까。 ウマヤ <u>イチユナーシャアンショランニ</u> 。
		疑詞：貴方様は <u>いつ頃</u> お忙しくてなくていらっしゃる습니까。 ウマヤ <u>イツイマングラ</u> <u>イチユナーシャアンショランナヨー</u> 。

過去形

肯定形	敬 1	一般：あなたは昨日 <u>お忙しかったですか。</u> ウガヤ チニユ <u>イチユナーシャアエティー。</u>
		疑詞：あなたは昨日いつ頃 <u>お忙しかったですか。</u> ウガヤ チニユ <u>イツイマングラ</u> <u>イチユナーシャアエターヤ。</u>
	敬 2	一般：貴方様は昨日 <u>お忙しくていらっしゃいましたか。</u> ウマヤ チニユ <u>イチユナーシャアンシェティー。</u>
		疑詞：貴方様は昨日いつ頃一番 <u>お忙しくていらっしゃいましたか。</u> ウマヤ チニユ <u>イツイマングラ</u> <u>イチン</u> <u>イチユナーシャアンシェター。</u>
否定形	敬 1	一般：あなたは昨日 <u>お忙しくなかったですか。</u> ウガヤ チニユ <u>イチユナーシャアヨランナティー。</u>
		疑詞：あなたは昨日いつ頃 <u>お忙しくなかったですか。</u> ウガヤ チニユ <u>イツイマングラ</u> <u>イチユナーシャアヨランナター。</u>
	敬 2	一般：貴方様は昨日 <u>お忙しくなくていらっしゃいましたか。</u> ウマヤ チニユ <u>イチユナーシャアンショランナティー。</u>
		疑詞：貴方様は昨日いつ頃 <u>お忙しくなくていらっしゃいましたか。</u> ウマヤ チニユ <u>イツイマングラ</u> <u>イチユナーシャアンショランナター。</u>

表 4 と表 5 とを比較してわかることは、表 4 の「物事を尋ねる場合の丁寧体形容詞述語形」は、現在形と過去形、その肯定形・否定形すべての語形で、〈敬 1〉の話し相手でも〈敬 2〉の話し相手でも違和感なく使える語形であるということである。

一方、表 5 の「話し相手の状態を尋ねる場合の丁寧体形容詞述語形」は、語形はあっても普通そう言わないという語形があるので、その例文を小さいポイントにしてある。その例文は以下の通りである。

- ・あなたはいつ頃お忙しくないですか。

ウガヤ イツイマングラ イチユナーシャアヨランナヨー。

- ・あなたは昨日いつ頃お忙しくなかったですか。

ウガヤ イツイマングラ イチユナーシャアヨランナター。

- ・貴方様はいつ頃お忙しくなくていらっしゃいますか。

ウマヤ イツイマングラ イチユナーシャアンショランナヨー。

- ・貴方様はいつ頃お忙しくなくていらっしゃいましたか。

ウマヤ イツイマングラ イチユナーシャアンショランナター。

・貴方様はいつ頃お忙しくていらっしゃるですか。

ウマヤ イツイマングラ イチユナーシャアンシェー。

これらの5つの例文は、すべて疑問詞で尋ねる文であり、4つの例文が否定形（1例は肯定形〈敬2〉）である。目上の人に目上の人本人の状態を尋ねる場合は、一般尋ね形の形では違和感なく受け止めてもらえる。しかし、疑問詞で尋ねなければならないときは、否定の形ではなく言葉を選んで肯定の形でお尋ねすることがよいということであろう。

3.1.3 名詞述語の形

名詞述語は「何は何だ」の「何だ」を表す。

伊江島方言の名詞述語の基本形は、現代日本語の断定を表わす助動詞「だ・である」にあたる「ヤン」を名詞に付けた形〈名詞 ヤン〉である。この形は、物事をきちんと説明するときに使われる形であるから、現代日本語の「です」にあたる丁寧さがあると考えてよい。日常の気の置けない間柄では〈名詞のみの形〉が使われる。否定形には「ーヤ アラン」も使える。

私は教員だ（です）。 ワンヤ チョーイン ヤン。

彼は教員ではない（ではありません）。

アリヤ チョーイン ヤラン。

アリヤ チョーインヤ アラン。

名詞述語で特異的な語形は肯定の一般尋ね形である。強調の意を表わす副助詞「ドゥ（ぞ、こそ）」が使われる形「名詞ードゥ ヤリ」が、普通に尋ねる語形として使われることである。たとえば、サーラという魚名をよく知らない人が、「はい（肯定）」か「いいえ（否定）」の返答を求めるときの尋ね形が「フリヤ サーラドゥ ヤリ（これはサーラか）」で、「フリヤ サーラ ヤミ（これがサーラか）」は、本当にそうなのかという確認をしたいときに使われる語形である。

ここでは、一般尋ね形の変化語形を、人以外の物事を表す名詞として魚

名「サワラ：サーラ」「ヒレナガカンパチ：ウキムル」を使い、人を表す名詞として「長男：チャクシ」を使って示す。表中では普通に尋ねるときに使われる場合を【普通尋ね】、確認するときに使われる場合を【確認尋ね】と表す。表6が普通体、表7と表8が丁寧体で、表7が物事を尋ねる場合の名詞述語形、表8が相手自身のことを尋ねる場合の名詞述語形である。

表6 一般尋ね形の普通体名詞述語形

現在形

肯定形	【普通尋ね】	これは <u>サーラ</u> か。 フリヤ <u>サーラドゥ</u> ヤリ。
	【確認尋ね】	これが <u>サーラ</u> か。 フリヤ <u>サーラ</u> ヤミ。
否定形	【普通尋ね】	これは <u>サーラ</u> ではないか。 フリヤ <u>サーラドゥ</u> ヤランニ。
	【確認尋ね】	これが <u>サーラ</u> ではないか。 フリヤ <u>サーラー</u> ヤランダラー。

過去形

肯定形	【普通尋ね】	あれは <u>ウキムル</u> だったか。 アリヤ <u>ウキムルドゥ</u> ヤティー。
	【確認尋ね】	あれが <u>ウキムル</u> だったか。 アリヤ <u>ウキムル</u> ヤタラー。
否定形	【普通尋ね】	あれは <u>ウキムル</u> ではなかったか。 アリヤ <u>ウキムルドゥ</u> ヤランナティー。
	【確認尋ね】	あれが <u>ウキムル</u> ではなかったか。 アリヤ <u>ウキムルドゥ</u> ヤランナタラー/ヤランナタカヤ。

表7 一般尋ね形の丁寧体名詞述語形－物事を尋ねる場合－

現在形

肯定形	敬1	【普通尋ね】	これは <u>サーラ</u> ですか。 フリヤ <u>サーラドゥ</u> ヤカヤ。
		【確認尋ね】	これが <u>サーラ</u> ですか。 フリヤ <u>サーラ</u> ヤラー。
	敬2	【普通尋ね】	これは <u>サーラ</u> でございますか。 フリヤ <u>サーラドゥ</u> ヤヤビカヤ。
否定形	敬1	【普通尋ね】	これは <u>サーラ</u> ではありませんか。 フリヤ <u>サーラヤ/ドゥ</u> ヤランカヤ。
	敬2	【普通尋ね】	これは <u>サーラ</u> ではございませんか。 フリヤ <u>サーラヤ/ドゥ</u> ヤヤビランニ。

過去形

肯定形	敬1	【普通尋ね】	あれは <u>ウキムル</u> でしたか。 アリヤ <u>ウキムルドゥ</u> ヤタカヤ。
		【確認尋ね】	あれが <u>ウキムル</u> でしたか。 アリヤ <u>ウキムル</u> ヤタラー。
	敬2	【普通尋ね】	あれは <u>ウキムル</u> でございましたか。 アリヤ <u>ウキムルドゥ</u> ヤヤビタカヤ。

否定形	敬 1	【普通尋ね】 あれは <u>ウキムル</u> では <u>なかった</u> ですか。 アリヤ <u>ウキムルヤ/ドゥ</u> ヤランナタカヤ。
	敬 2	【普通尋ね】 あれは <u>ウキムル</u> では <u>ござい</u> ませんでしたか。 アリヤ <u>ウキムルヤ/ドゥ</u> ヤヤビランナタカヤ。

表 8 一般尋ね形の丁寧体名詞述語形－相手自身のことを尋ねる場合－

現在形

肯定形	敬 1	【普通尋ね】 あなたは <u>ご長男</u> ですか。 ウガヤ <u>チャクシドゥ</u> ヤエリ。 【確認尋ね】 あなたが <u>ご長男</u> ですか。 ウガヤ <u>チャクシ</u> ヤエミ。
	敬 2	【普通尋ね】 貴方様は <u>ご長男</u> で <u>いらっ</u> しゃいますか。 ウマヤ <u>チャクシドゥ</u> ヤンシエカヤ。 【確認尋ね】 貴方様が <u>ご長男</u> で <u>いらっ</u> しゃいますか。 ウマヤ <u>チャクシ</u> ヤンシエミ。
否定形	敬 1	【普通尋ね】 あなたは <u>ご長男</u> では <u>ない</u> ですか。 ウガヤ <u>チャクシヤ/ドゥ</u> ヤヨランダラー。
	敬 2	【普通尋ね】 貴方様は <u>ご長男</u> で <u>なくて</u> いらっしゃいますか。 ウマヤ <u>チャクシヤ/ドゥ</u> ヤンショランニ。

過去形

肯定形	敬 1	【普通尋ね】 あなたは <u>ご長男</u> でしたか。 ウガヤ <u>チャクシドゥ</u> ヤエティー/ヤエタルバイ。 【確認尋ね】 あなたが <u>ご長男</u> でしたか。 ウガヤ <u>チャクシ</u> ヤエティー/ヤエタルバイ。
	敬 2	【普通尋ね】 貴方様は <u>ご長男</u> で <u>いらっ</u> しゃいましたか。 ウマヤ <u>チャクシドゥ</u> ヤンシエタカヤ。 【確認尋ね】 貴方様が <u>ご長男</u> で <u>いらっ</u> しゃいましたか。 ウマヤ <u>チャクシ</u> ヤンシエティー。
否定形	敬 1	【普通尋ね】 あなたは <u>ご長男</u> では <u>なかった</u> ですか。 ウガヤ <u>チャクシヤ/ドゥ</u> ヤヨランナティー。
	敬 2	【普通尋ね】 貴方様は <u>ご長男</u> で <u>なくて</u> いらっしゃいましたか。 ウマヤ <u>チャクシヤ/ドゥ</u> ヤンショランナタカヤ。

【普通尋ね】の副助詞「ぞ：ドゥ」が述語名詞に付く語形は、普通体（表 6）では、現在形・過去形ともに肯定形・否定形ともに使われている。

丁寧体（表 7・表 8）では、【普通尋ね】の副助詞「ぞ：ドゥ」が付く語形は、〈敬 1〉〈敬 2〉の相手に対して現在形・過去形ともに肯定形なら使われる。副助詞「ぞ：ドゥ」が付かない【確認尋ね】語形は、相手自身のことを尋ねる場合には〈敬 1〉〈敬 2〉ともに肯定形なら使われるが、

物事を尋ねる場合、〈敬2〉の相手には使われていない。

否定形述語名詞には「は：ヤ」「ぞ：ドウ」とともに使われているが、現在、80歳未満の方言使用者では「ヤ」使用の人が多い。【確認尋ね】否定形は、目上の話し相手には使われていない。

3.2 主語の形

伊江島方言の主語を表す形には、現代日本語と同様に〈名詞－格助詞「が：ヌ/ガ」〉、〈名詞－副助詞「は：ヤ」〉、〈はだか格の形（名詞のみ）〉の3タイプがある。

3.2.1 主語〈名詞－が〉

現代日本語の格助詞「が」は、伊江島方言では前にくる名詞の種類によって「ヌ」と「ガ」とを使い分ける。

「ヌ」は、前にくる名詞が人称代名詞・親族呼称・人名以外の場合に使う。ただし、人称代名詞のうち、最高敬意を表す対称代名詞「ウンジュ・ウマ」は例外で、下例3番目のように「ヌ」が使われる。

- ・一人の若者が山の木を切り倒した。

ツチュイス ワハムンヌ ヤマヌ キー ツチートーチャン。

- ・ある少女がまりつきをして遊んでいた。

アル キナウワラビス マイウチェ シー アスイディウタン。

- ・貴方様がお先にお休みになってくださいませ。

ウンジュヌドウ サチナイティ ユフインショチトゥラシンショリ。

「ガ」は、前にくる名詞が人称代名詞（〈敬2〉の対称代名詞「ウンジュ・ウマ」を除く）・指示代名詞・親族呼称・人名のときに使う。ただし、伊江島方言「ガ [ga]」は、前接の母音と融合して長音化し、「ガ」の音は発音されない。これは、伊江島方言独特の音変化現象である。

- ・竹吉がその仕事をするだろう。

タケキチェー ウヌ シクチ シューラード。

- ・叔父さんが私に鎌を貸してくださった。

ウンチョー ワンカイ ハマ ファーチトラショチャン。

- ・ キクが働いて、栄進が通学した。

キコー パタラチ, エイシノー ガッコ アイチャン。

- ・ 姉ちゃんがこの葛餅を作ったんだよ。

マーマー フヌ クズイムチ タチャンドー。

- ・ 武夫が僕をかばってくれた。

タケオー ワン タンキティトゥラサタン。

- ・ 君枝が名護で待っているから、私たちも早く行こうね。

キミエー ナゴナイティ マチウウトウ, ワッタン ハク イチャヤー。

「ガ」が前接の名詞の最終母音と融合するという現象は、上3例のように名詞最終母音に変化する場合と、下3例のように変化しないでそのまま名詞最終母音を長音化すればよい場合がある。

「ガ」直前の名詞最終音が融合変化するのは、「い」段音・「う」段音・「ん」の音で、「い」段音は「え」段長音に、「う」段音は「お」段長音に、「ん」は「ノー」になる。

例文の人名を使って融合変化形をまとめてみると、次のようになる。

「ーが」融合前の形	⇒	「ーガ」融合語形
「い」段音ーが	⇒	「え」段長音
例 竹吉が：タケキチーガ takekiʃi-ga	⇒	タケキチエー takekiʃe:
「う」段音ーが	⇒	「お」段長音
例 キクが：キクーガ kiku-ga	⇒	キコー kiko:
…ンーが	⇒	…ノー
例 栄進が：エイシンーガ ʔeifin-ga	⇒	エイシノー ʔeifino:

「ガ」直前の名詞最終音が変化しないのは「あ」段音・「え」段音・「お」

段音で、名詞の最終母音が長音化する形になる。

3.2.2 主語〈名詞ーが〉と〈名詞ーは〉

動詞文の主語はふつう現代日本語では「が」が使われる。伊江島方言では「ヌ」が使うが、前述のとおり例外があり、前にくる名詞が人称代名詞（〈敬2〉の対称代名詞「ウンジュ・ウマ」を除く）・指示代名詞・親族呼称・人名のときには「ガ」を使う。この「ガ」は発音されず、前接名詞最終母音との〈ガ融合形〉となる。

- ・今日は朝から雨が降っている。

チューヤ スイカマーラ アミヌ プティウウン。

- ・子供たちの歌声が遠くから聞こえてきた。

ワラビンチャヌ ウタグイーヌ トゥーサーラ チチャティチャン。

- ・雨の中を叔父さんが畑から帰ってきた。

アミヌ ナハーラ ウンチョー パルーラ ケーティチャン。

*ウンチョーは「ウンチュ（叔父さん）が」の〈ガ融合形〉。

動詞文で「は：ヤ」が主語として使われるのは、主として、話題の中心となる事柄をとりたてて説明しようとする場合と伝えたいことがすでに出されていること、すなわち既知の情報を話題として持ち出す場合である。

話題の事柄をとりたてて説明する場合

- ・雨は罪人の上にも降る。アミヤ トウガニンヌ ツウインカイン プユン。
- ・台風は熱帯の海で発生する。

ハズィプチャ ペーヌ ウニナイティ ショージユン。

- ・山の木は許しがないうまま切り倒してはいけないのだ。

ヤマヌ キーヤ ユリーヌ ネンゲートウ ツチートーシェー
ナラヌバー。

既知の情報を話題として持ち出す場合

- ・ある年のこと、一人の若者が山に入り込んで、山の木を倒して、その

木を家に持ち帰ったそうな。その若者はその日から病気になって、どんな良い医者にかかっても、何の病気やらお医者さんも全くおわかりにならなかった。

アル トウシヌ フトゥー, ツチュイヌ ワハムンヌ ヤマンカイ
ペーリクディ, ヤマヌ キー トーチ, ウヌ キー ヤーンカイ
ムチチーアルプージ。 ウヌ ワハムンヤ ウヌ ティーラ ヤンメ
ナティ, イチャール キー イシャンカイ ハーティン, ヌーヌ
ヤンメヤラ イシャヌン マルディ ワハンショランナタン。

「ヤ」は、独立した「ーヤ」の形で使われるだけでなく、前接の母音と融合変化する形もあり、日常会話ではこの融合形の方がよく使われる。〈ヤ融合形〉は、「ガ」の融合変化形と同じである。

形容詞文の主語には「が：ヌ」と「は：ヤ」が使われ、「ヌ」は一時的な現象や状態を表す場合に、「ヤ」は一般的な性質や状態を表す場合に使われる。

「ヌ」が使われる例

- ・今日は風が強い。 チューヤ ハズイヌ チューサ。
- ・ユリの花がとってもきれいだねえ。

ユイヌ パナヌ シーペ チュラサヌヤー。

- ・私の背丈がもう少し高かったらなあ。

ワー タキヌ ツニヤーツピ タカサアティアリバヤー。

「ヤ」が使われる例

- ・宮古馬は飼やすい。 ニヤーフマヤ スイカネヤツツア。
- ・私の畑は港から遠い。 ワッタ パルヤ ニヤートウーラ トウーサ。
- ・叔母さんはお元気ですねえ。 バーバー ガンジューサアエンヤー。

名詞文の主語は、主語の名詞に対して述語の名詞で具体的に詳しく説明しようとする場合が一般的で、「ヤ」が使われる。

- ・私の兄は信用できる人ですよ。

ワー スイザヤ マタシンチュ ヤンドー。

- ・ 島村カナーは番所の書記だった。

シマムラカナーヤ バンジュヌ ティキグ ヤタン。

3.2.3 主語の強調形

現代日本語では、格助詞「が」に副助詞「は」や「も」が付くことはない。しかし、伊江島方言では他の沖縄諸方言方言と同じように、主語の名詞が特別に強調されるときには、「がは：ヌヤ」「がも：ヌン」「がこそ：スドゥ」のように、格助詞「ヌ」に副助詞「ヤ」「ン」「ドゥ」を付けて使われる。ただし、「ヌヤ」はその形では使われず、融合変化語形の「ノー」を使う。

- ・ 世間 (が^{うわて})はいつも上手だよ。 シキンノー ツチャー ティーウイドー。
- ・ 貴方様 (が)はお勤めばかりをなさいます。

ウンジュノー ウツイトウミビケイドウ シンシエル。

- ・ 何の病気やら、お医者さん (が)も全くお分かりにならなかったんだ。
- ・ ヌース ヤンメヤラ、イシャヌン マルディ ワハンショランナタルパー。
- ・ 背丈は兄 (が)こそ高くなかった。弟が高かった。

タキヤ スイザヌドゥ タカサネンアティアル。ウトゥヌ タカサアタン。

3.2.4 はだか格の主語

日常の会話では、目の前で起きている出来事を伝えようとする場合、助詞が付かない〈はだか格〉がよく使われる。これは、現代日本語も伊江島方言も同じである。

- ・ ここに蜂 いるよ。 ツマーナイ パチ ウウンドー。
- ・ 暑くて汗 だらだら出る。

アツイサヌ アスィー グラーダラ イジュン。

- ・ 今大きな地震 揺れていたね。

ツニヤンマ イチャーペール ネー ユユタンヤー。

- ・ 新幹線 すごく速かったよ。

シンカンセン ウミチャーチ ペーサアタンドー。

- ・この道具 珍しいねえ。 フヌ ドーグ テルマーシャヤー。
- ・あの人 変わり者だねえ。 アヌ ツチュ ピンジムン ヤッツァヤー。

4. 補 語

補語は述語の意味を完全に表現するために重要な文の構成要素で、必須要素〈直接補語〉と必要要素〈間接補語〉とがある。名詞に格助詞が付く形で表される。

4.1 直接補語

直接補語は動詞の働きかけの対象（受け手）となる語である。現代日本語では〈名詞－格助詞「を」〉で表され、伊江島方言では他沖縄諸方言と同様に、〈はだか格の形（格助詞が使われないで名詞のみの形）〉で表される。

働きかけを受ける対象

- ・子どもが本を読む。 ワラビヌ シュムツイ ユニユン。
- ・太郎が僕を殴った。 タラー ワン スイグタン。
- ・牛が小桶の水を飲んでいる。

ウシヌ ウウキヌクワヌ ミズイ スディウウン。

つくりだす対象

- ・姉がサツマイモを蒸した。 マーマー ウムー ウブチャン。
- ・母が私の洋服を縫ってくださった。

アンマー ワー チヌー ノーティトゥラショチャン。

- ・祖父は前庭に一人で馬小屋を建てた。

ウブシュヤ ニャー ナイ ドウンチュエイシ ツマンヤーマ
シュガタン。

心が向かっていく対象

- ・弟は幽霊をととても怖がる。

ウトウヤ キジムン シーペ ウトゥルーシャシュン。

- ・母は祖母の病氣を心配している。

アンマヤ パッパヌ ヤニー シワ シーウウン。

・三線が鳴ったら、私はいつもおじいさんを思い出す。

サンシンヌ ナレー、ワンヤ ッチャッパル ウプシュ
ツミージャシユン。

4.2 間接補語

間接補語は、述語の意味を明瞭に表現するための直接補語以外の必要要素で、〈名詞－格助詞〉の形で表される。

述語が「借りる」「混ぜる」などのような他動詞の場合には、その動きの対象となる直接補語のほかに、動作や状態が成り立つために必要な間接補語を必要とする。述語によっては、間接補語だけのものもある。

間接補語は、動詞文だけでなく、「宿は港に近い」のような形容詞文にも用いられる。

まず、意味役割別にどの格助詞が使われるかを表9に示す。

表9 間接補語として働く格助詞

意味役割		格助詞		述語に使われる 動詞・形容詞例
		現代日本語	伊江島方言	
相手	向けられる相手	に	ンカイ, ナイ, キ	教える, 話す, 励む, させる, 書かせる
	もたらす相手	に, から	ーラ/ [*] ラ, ナイ, キ	借りる, もらう, 頼まれる, 叱られる
場所	存在場所 位置づけられる場所	に	ナイ	ある, いる, ない 出ている, 建てる
	移動先 くつつく場所	に, へ	ンカイ	着く, 向かう, 行く 塗る, 留まる
	取り外す場所	から	ーラ	もぐ, はがす
相手を必要とする動作の相手		と	トゥ	喧嘩する, 落ち合う
変化の結果		に	ンカイ, Ø	なる, 着替える
状態の基準		に	ナイ	近い, おいしい, 似ている, 大きすぎる

*「ラ」は「ーン」に終わる名詞に付く。

4.2.1 相手

向けられる相手

動作や作用が向けられる人や物事を表わすには、現代日本語では「に」、伊江島方言では「ンカイ」が使われる。

- ・ 弟に字を教える。 ウトウンカイ ジー ナラシュン。
- ・ 兄は僕の隠し事を母に話した。

スイザヤ ワー ハクシグトゥ アンマンカイ パナチャン。

- ・ 彼は毎日朝から日が暮れるまで畑仕事に打ち込んだ。

アリヤ メーニチ アサスィカマーラ ユー ッキーローダ
パルシクチンカイ パマタン。

使役動作の向けられる相手を表すときも、現代日本語では「に」、伊江島方言では「ンカイ」が使われる。伝統的伊江島方言話者では「ナイ」「ヰ」が使われた。

- ・ 太郎に字を書かせる。 タランカイ ジー ハカシュン。
- ・ 息子に習い事をさせる。 ヰキガングワンカイ ナレーグトゥ シミユン。
- ・ お前は手を動かさないで、人にさせたらどうか。

ッラーヤ ティー ウィーカサングートゥ ツチューナイ
シミタラー イチャガ。

- ・ お前なんかに食わせる芋があるものか。

ッラーグヰ ッカーシュル ウムヌ アミ。

もたらず相手

授受表現の動作主を表わすには、現代日本語では「に」「から」、伊江島方言では「ーラ」が使われる。

- ・ 友達に/から本をもらった。 ドゥーシーラ シュムツイ ヰタン。
- ・ 三本刃鋏を叔父さんに/から借りた。

ニツイバングェ ウンチューラ フータン。

- ・ この話はおばあさんに/から聞いた。

フヌ パナシヤ パッパーラ チチャン。

受身表現の動作主を表す場合、現代日本語では「に」、伊江島方言では「ナイ」が使われる。伝統的伊江島方言話者では「キ」が使われた。

- ・泥棒にお金を盗まれた。ヌスイドゥナイ ズィニー ヌスイマタン。
- ・海が荒れていて、彼は波にさらわれた。

ウニヌ アラサヌ、アリヤ ナニナイ ムタタン。

*「ムタタン」の原意は「持たれた」。

- ・どうぞ我慢してくださいと字^{あざ}の人にお願いされたからねえ。

ドーディン フネショチタボリーディチ アザヌ ツチュキ
ニガラタトゥヨー。

受身表現のうち、現代日本語で「に」「から」両方が使える動作主のときは、伊江島方言では「ナイ」「ーラ」両方とも使える。

- ・私は母親に/から手伝いをたびたび頼まれる。

ワンヤ アンマナイ/ーラ テーネ ハズィハズィ タヌマリン。

- ・次郎はおじいさんに/から「黙っておれ」と叱られた。

ジラー ウプシュナイ/ーラ 「ヨーシュリ」ディチ アビラタン。

4.2.2 場所

存在場所

場所を表す事柄のうち、存在の場所や所有するものを表すには、現代日本語では「に」、伊江島方言では「ナイ」を名詞に付ける。

- ・今なら母が家にあります。

ツニヤンマドウン ヤレー アンマー ヤーナイ ウウヤビン。

- ・島にいる親たちが心配だ。

シマナイ ウウル ウヤンチャ シワドゥ ヤル。

- ・この学校にはぶらんこがない。

フヌ ガッコナイヤ ウンジャーギヌ ネン。

位置づけられる場所

物事の発生・出現・施設などの位置づけられる場所を表す場合も、現代日本語では「に」、伊江島方言では「ナイ」を名詞に付ける。

- ・梢に若芽が出ている。 キーヌバナナイ ミーヌ イジティウウン。
- ・祖父が庭に小屋を建てた。

ウブショー ニヤーナイ ヤーマ シュガタン。

移動先

移動先や目的地を表すには、現代日本語では「に」「へ」、伊江島方言では「ンカイ」を使う。

- ・那覇に/へ着いた。 ナッパンカイ スイチヤン。
- ・彼らは昼間の内にここに/へ到着するだろう。

アリター ティルマンエーダナイ フマンカイ スイチュラード。

- ・やっとのことで山の頂上へ/に登りついた。

ヤトゥカトウシ ヤマヌ マツイジンカイ ヌブイパティタン。

くつつく場所

くつつく場所を表すにも、現代日本語では「に」「へ」、伊江島方言では「ンカイ」を使う。

- ・土壁に/へ漆喰を塗る。 ンチャフビンカイ ムチ ヌユン。
- ・トンボが竿の先に/へ留まっている。

アケーズィヌ ソーヌ サチンカイ スイガティウウン。

取り外す所

取り外す所を表すには、現代日本語では「から」、伊江島方言では「ーラ」を使う。

- ・おじさんはミカンの木からミカンをもいだ。

ウブシュヤ クニブヌ キーラ クニブ ムタン。

- ・封筒から切手をはがしなさい。 ティガミブクーラ キッテ パンシバ。

4.2.3 相手を必要とする動作の相手

相手を必要とする動作の相手を表すには、現代日本語では「と」、伊江島方言では「トゥ」を名詞に付ける。

- ・弟とけんかする。 ウトウトウ オーユン。
- ・店で先生と会った。 マチャナイティ シンシートゥ アータン。

- ・港で仲間と出合って那覇に行った。

ニャートウナイティ ドゥーシトウ イチャティ ナッパンカイ
イヂャン。

4.2.4 変化の結果

動作・作用の結果を表すには、現代日本語では「に」、伊江島方言では〈名詞－ンカイ〉形と、格助詞を使わない〈名詞のみの形〉とがある。

変化の結果を〈名詞－ンカイ〉で示すか、〈名詞のみの形〉で示すかは、結果が必然的なことか否かによる。必然的でない結果、あるいははっきり結果が分かっていなかった場合や丁寧に説明する場合に〈名詞－ンカイ〉を使い、いわば当たり前の結果と思われる場合に〈名詞のみ〉の形を使う。

〈名詞－ンカイ〉が使われる例

- ・新しい服に着替える。 ニーヂンカイ チーケーユン。
- ・彼は何の勤め人になったんだい。

アレー ヌーウエーデインカイ ナターヤ。

- ・私の末っ子は医者になりたいと言っている。

ワー ウトウングワヤ イシャンカイ ナイブーシャディ イチウウン。

- ・いつの間にか荒地から畑になっていた。

イツィヌ マドゥイヤラ アラジーラ パルンカイ ナティウウタン。

〈名詞のみ〉の形で使われる例

- ・私の息子は医者だが、孫も医者になった。

ワッタ キキガングワヤ イシャー ヤスイガ、 ッマーハン
イシャー ナタン。

4.2.5 状態の基準

状態の基準を表すには、現代日本語では格助詞「に」、伊江島方言では「ンカイ」を基準となる名詞に付ける。

- ・私の家は港に近い。 ワッタ ヤーヤ ニャートウンカイ チチャサ。
- ・私の考えは彼に近い。 ワー ハンゲ アリンカイ チチャサ。
- ・長女は母親に似ている。

スイザキナウングワヤ アンマンカイ ニヤーティウウン。

- ・この服は君には大きすぎる。

フヌ チヌヤ ッランカイヤ ウピシャヂューミ。

- ・この味噌汁は君にはおいしくないだろうが、私はおいしい。

フヌ ンシュシルヤ ッランカイヤ ッマーサネンパズィヤスイガ、
ワンヤ ッマーサ。

5. 主語・述語・補語以外の構成要素

5.1 状況語

状況語は、出来事やありさまの成り立つ状況を明確にするために、場所や時、手段・材料、原因・根拠、目的を表す要素である。

まず、意味役割別にどの格助詞が使われるかの一覧を表10に示す。

表10 状況語として働く格助詞

意味役割		現代日本語	伊江島方言
場所 時	動作が行われる場所	で	ナイティ/ ^{*1} ナイトゥーティ, ^{*2} ウウティ, ジ
	通っていく場所	を	ーラ/ラ
	動きの起点となる場所・時	から, より	
	動きが終わる場所・時 動作そのものが終わる時	まで	ヤケ 動詞連体原形-エーダ
	動作や状態が成り立つ時	に, Ø	ナイ, Ø
手段	手段		シ, ーラ
	道具	で	シ
	材料		
	原料	から	シ, ーラ
原因・根拠		で, から	
目的		動詞連用形-に	動詞連用形-ジャ/ ^{*3} ンジャ

*1 「ナイティ」と意味・用法が同じ。現在はほとんど使われていない。

*2 固有の伊江島方言ではないが、西地区では明治20年前後生まれの人から使われている。

*3 動詞連用形の最終音が「イ」のときは、「イ」が「ン」に交替して「ジャ」が付く。

5.1.1 場所・時

動作が行われる場所

動作が行われる場所は、現代日本語では「で」、伊江島方言では「ナイティ/ナイトウーティ」「ウウティ」「ジ」を名詞に付ける形で表す。物の位置づけられる場所を表す現代日本語の「に」との区別は、伊江島方言でも「ナイティ」「ウウティ」と「ナイ」とで使い分ける。

- ・今日は家で仕事をしよう。

チューヤ ヤーナイティ シクチ ツツアー。

- ・友達が門の所で手招きしていた。

ドゥーシヌ ジョーナイトウーティ ワン テーマヌチャ
シーウウタン。

- ・私は家で子どもをお守りする方がいい。

ワー ヤーウウティ ックワー ムユセー マシ。

「ジ」も動作が行われる場所を表すが、「どこかへ行ってそこで」の状況のときに使える。

- ・みんな浜で遊んでおいで。 ムル パマージ アスイディフー。

*「パマー イジ」, 「パマンカイ イジ」も使える。

- ・タバコはここで吸わないで家で吸いなさい。

タバクヤ フマナイティ プカングートウ ヤージ プキバ。

- ・夜に行って盗んできてね、人の畑で。

ユルー イジ ヌスイディチャーヨ, ッチュヌ パルージ。

通っていく場所

継続的な移動を表す動詞を伴って、人や動物が通っていく場所を表すには、現代日本語では「を」、伊江島方言では「ーラ」を名詞に付ける。

- ・鷹が空を飛んでいる。 タハヌ ティントーラ トウディアイチュン。

- ・兄の枕元を歩かないで、足元を歩け。

スイザヌ マッカニーラ アイカングートウ, ティシャンシャーラ
アイキ。

- ・帽子を被らないで日向を歩くんじゃないよ。

ポーシ ハンバングートゥ ティダヌミーラ アイクノー。

動きの起点となる場所・時

起点の場所

動き（動作・作用や状態）が始まる場所を表すには、現代日本語では「から」、伊江島方言では「ーラ/ラ」を、起点を表わす名詞に付ける。現代日本語では「那覇を出発する」のように「を」が使える場合もあるが、「を」が移動に使えるのは開始を表わす動詞を伴う場合である。

- ・那覇から/を出発する。 ナツパーラ イジタチュン。
- ・隙間から光が漏れる。 マドゥーラ ティチャイヌ ムユン。
- ・太陽が海から上ってきていた。

ティダヌ ウニーラ アーティチュータン。

起点の時

動き（動作・作用や状態）が始まる時を表すには、現代日本語では格助詞「から」「より」、伊江島方言では「ーラ/ラ」を、時を表す名詞に付ける。

- ・会議は3時から/より始まる。 スリーヤ サンジーラ パジマユン。
- ・私は早朝から働いている。 ワンヤ アサパーサーラ パタラチウウン。
- ・私たちが若いころから台湾豚はいた。

ワッタ ワハサアイラ タイワンワーヤ ウウタン。

動きが終わる場所・時

動き（動作・作用や状態）が終わる場所

移動を表わす動詞を伴って、その動きの終了場所、到達場所を表わすには、現代日本語では「まで」、伊江島方言では「ヤケ」を名詞に付ける。

- ・那覇まで荷物を届けた。 ナツパヤケ ニー トウドウキタン。
- ・一緒に港まで行きませんか。 マジー ニャートウヤケ イチャビランナ。
- ・シャボン玉が屋根まで飛んでいった。

シャフンブラヌ ヤンザヤケ トウディイチュタン。

動き（動作・作用や状態）が終わる時

動作や状態が終わる時を表すには、現代日本語では格助詞「まで」、伊江島方言では「ヤケ」を、時を表わす名詞に付ける。

- ・明後日まで休みますので、よろしく願いいたします。

アサティヤケ ユフヤビトウ, ユタシャ ウニゲ シャービラ。

- ・くたびれていたのか、兄は昼まで寝ていた。

クタンディティウウタラ, ンーミヤ マッティルマヤケ

ニンティウウタン。

動きそのものが終わる時

動きそのものが終わる時を表すには、動詞連体原形に「エーダ」の頭音を融合した形が使われる。

- ・母の仕事が終わるまで私は外で待っていた。

アンマー シクチヌ ウワローダ ワンヤ ポホナイティ
マチウウタン。

- ・杯に溢れるまで酒を注いでくれ。

サハズィチナイ アンディローダ サキ スイジトウラスィ。

「ウワローダ」は「ウワユン（終わる）」の連体原形「ウワル」に「エーダ（間）」の頭音が融合してできた形である。

動作や状態が成り立つ時

動作や状態が成り立つ時を表すには、現代日本語では格助詞「に」、伊江島方言では「ナイ」を、時を表す名詞に付ける。

- ・6時に起きる。 ルクジナイ ウキユン。

- ・9時に畑耕しを始めようね。 クジナイ パルハズィ パジミラヤー。

- ・この仕事は昼間に終わる。

フヌ シクチャ ティルマンエーダナイ ウワユン。

- ・その時、私はたいてい26, 7歳だっただろう。

ウヌ トゥチャー, ワー テーゲー ニジュールク, シチナイ
ヤティアッシャン。

「今日」「去年」「来月」など〈時を表わす名詞〉は、現代日本語・伊江島方言ともに格助詞・副助詞の付かない〈はだか格の形〉で使われる。

・去年雨が少なかったねえ。 フズー アミー イキラーサアタンヤー。

・来年私の初孫が生まれる。

ヤニー ワタ パツイッマーハ ッマーリユン。

・タベハンドゥーはそこら辺りを歩いてたよ。

ユビ ハンドー ッマーダーティ アイチュタンドー。

5.1.2 手段

手段

手段を表すには、現代日本語で「で」、伊江島方言では「シ」または「ーラ」を名詞に付ける。手段をはっきりさせたいときは、「シ」を使う。

・太郎はバスで帰ってくる。 タラヤ バスーラ/シ ケーティチュン。

・昔は日本本土へは船で行った。

ンカシリヤ ヤマトウンカイヤ クニーラ/シ イヂャン。

・彼のことは手紙でわかった。

アレー フトゥヤ ティガミシ/ーラ ワハタン。

＊「ティガミシ」は直接手紙を貰ってわかったの意。

「ティガミーラ」は誰かが手紙を貰って彼の消息がわかったの意。

ただし、手段でも下記の例文のように「シ」しか使えない場合もある。

・日本語はわからないので、島言葉で言おうね。

ヤマトウグチャ ワハラントウ シマグチシ ッヤーキー。

・このことは投票で決められる。

フヌ フトゥヤ クダイリシ チミラリン。

道具

使用する道具を表すには、現代日本語では「で」、伊江島方言では「シ」を名詞に付ける。

・木の太榎で地面をたたき固めた。 ユングイシ ジー タタチハタミタン。

- ・ 足で踏む。 ティシヤシ クダミユン。

材料

目でわかる材料を表すには、現代日本語では「で」、伊江島方言では「シ」を名詞に付ける。

- ・ 茅で屋根を葺く。 ハヤシ ヤンザ プチュン。
- ・ この三線の棹はコクタンで作ってある。

フヌ サンシンヌ ソーヤ クルチシ シュガティアン。

原料

品物を見ただけでは、もとの材料がその姿をとどめていない原料を表すには、現代日本語では「から」が使われるが、伊江島方言では「ーラ」「シ」ともに使える。

- ・ 醸造酒はサツマイモから作られる。

タリザキヤ ウムーラ/シ シュガラリン。

5.1.3 原因・根拠

起こった物事の原因・根拠を表すには、現代日本語では「で」、伊江島方言では「シ」を名詞に付ける。

- ・ 病気で休んでいる。 ヤンメシ ユフティウウン。
- ・ 台風で大きなガジマルも倒れた。

ハズィプチシ キープドール ガズィマールン トーリタン。

動作や状態が起こった原因や根拠を明確にしたいときには、現代日本語では「から」を使い、伊江島方言では「ーラ」を使う。

- ・ 次郎の手違いから家が焼けた。

ジラー ティーマチゲーラ ヤー ヤキタン。

- ・ 私の勘違いから彼と不仲になった。

ワー カンチゲーラ アリトゥ フナカ ナタン。

5.1.4 目的

動作の目的を表すには、現代日本語では動詞連用形に「に」を付け、伊江島方言では動詞連用形の最終母音を長音化した形に「ジャ」を付ける。

ただし、連用形の最終音節が「イ」になるときは「ン」に交替して「ジャ」が付く。

・海へ泳ぎに行く。 ウニンカイ ツウィージージャ イチュン。

・娘たちは水を汲みにマーガに行った。

キナウンチャー ミズイ クニージャ マーガンカイ イチャン。

・彼はたびたび忘れ物を取りに家へ帰る。

アリヤ ハズイハズイ ワツツイムン トウンジャ ヤーンカイ
ケーユン。

この「ジャ [3a]」は「ガ [ga]」の子音が口蓋化したもので、伊江島で伝えられてきている子守唄の一節には「ガ」が使われている。

・どこへ行くの、大ネズミさん。 ダンカイ イチョー、ウブツウエンチュ。

イシャラ海にカニを取りに。 イシャラウニンカイ ガニ トウイガ。

5.2 修飾語

修飾語には述語にかかっていく連用修飾語と、体言（名詞）にかかっていく連体修飾語がある。

5.2.1 連用修飾語

連用修飾語は述語にかかっていく要素で、主として動きや状態の様子が「どのように」なのか、その様子が「どれくらい」の程度なのかを表す。副詞はその働き専用の品詞であるが、その他、動詞や形容詞の変化した形などが修飾語の働きをする。

1) 動きや状態の様子—どのように—

副詞

副詞のうち、擬音語・擬態語を含む様態を表す副詞が使われる。

・おばあさんは薄暗い道をゆっくり歩いて行った。

パッパヤ ウスイガーサヌ ニチーラ ニグーニグ アイチイジャン。

・壊れるから、そっと触りなさい。

ッコーリユトウ、ヨーターミ サーリバ。

- ・隣の部屋で妹たちがすうすう眠っている。

トゥナイヌ ザーナイティ ウトゥンチャー マーサマーサ
ニンティウウン。

動詞の中止形〈「ーて」形・「ーながら」形〉

- ・父は急いで港へ行った。

チャーチャー アワティティ ニヤートウンカイ イジャン。

- ・カラスが鳴きながら飛んでいった。

ガラスイヌ ナチューチャーニャ トウディイチュタン。

*「ナチューチャーニャ」は「ナチュン（鳴く）」の連用形「ナチ」に「ガチャーニャ（ながら）」の頭音が融合した形。

形容詞の連用形・基本形

形容詞が修飾語として使われるときは、本来、連用形〈「ーく」形〉がその役割を担うが、この形は伊江島では伝統的伊江島方言話者に使われていた。明治時代末期頃生まれの方々から、伊江島方言では形容詞基本形（「ーサ」形）が使われている。

- ・畝でも大きくしなければ、昔の島砂糖黍のようなものになってしまうよ。

マニドウン ウピク ツツァンナレー、ンカシヌ シマウウジヌ
グトールムン ナユンドー。

- ・早く産み終えたんですねえ。 ペーサ ナシアギタル バー ヤツィヤー。

- ・多く持ってこれませんが、3合瓶一つは持ってきますよ。

ウプサ ムチチャービランスイガ、サンゴビン ティーツェー
ムチチャービツツァ。

形容詞の中止形・条件形

形容詞中止形の〈「ーくて」中止形〉は、何かが起こる原因や理由を表す。

- ・その服は値段が高くて買えなかった。

ウヌ チヌヤ タカサアティ ホーランナタン。

- ・その菓子はとてもおいしくて、たちまちな食べてしまった。

ウス クワーシヤ ウミチチ ツマーサアティ, タチヌマイ ムル
ツケーパティタン。

形容詞条件形の〈「-ので」条件形〉は,「-ので」の前に述べたことが,後の事態の必然的原因や理由であることを明確に表す。

- ・向かい風が強いので, 前へ歩きにくかった。

ンケハズィス チューサヌ, メンカイ アイチグルシャアタン。

- ・あまりに寒いのでぶるぶる震えていた。

ドゥク ピーサヌ プトゥプトゥ シーウウタン。

2) 動きや状態の程度—どれくらい—

副詞のうち程度を表す副詞が使われる。

- ・母はひどく疲れているようだった。

アンマー ウミチチ クタンディティアイギーサアタン。

- ・サツマイモをたくさん掘ってきた。 ウムー キータカ プティチャン。

- ・彼よりお前の方がずっと悪いよ。

アリユカ ッラー ドゥードゥ ワツツァアンドー。

- ・豆はしっかり干してから取り入れる。

マミヤ シーペ プチーラ トゥイイリユン。

- ・少しあちらへ寄ってください。 スットゥ アマンカイ ユヤンネ。

程度副詞は現代日本語と同じように様態の副詞の修飾語としても使う。

- ・もっとゆっくり歩きなさい。

ツニヤーピ ヨーニヤナ アイキベー。

3) 動きや状態の時間限定

時および頻度を表す副詞は, 動きや状態を時間的に限定する。

- ・いつまでもこのことを忘れるなよ。

イチャーナゲン フヌ フトゥー ワツインナヨー。

- ・ちょっと私の家へ来られませんか。

イトウチャ ワタ ヤーンカイ フーラランニ。

- ・おや, もう家に着いたのかい。

アメ, キツツア ヤーンカイ スイチャルバイ。

- ・ 早く こっちへおいで。 ハク フマンカイ フーバ。

4) 述語の陳述的意味の補足・強調

陳述副詞は、文の表す事柄の組み立てには加わらないで、述語といっしょに話し手の態度や気持ち、取り上げ方を表す。

- ・ どうかこの船に乗せてくださいませ。

ドーディン フヌ クニンカイ ヌスイティトラシンシヨリ。

- ・ ぜひご参加ください。 ズイフィ チムズリ シンシヨリ。

- ・ どうしてもあの人の名前を思い出せない。

イチャーシン アヌ ツチュヌ ナー ツミージューサン。

- ・ たぶん明日は雨が降るだろう。

ユー ツツエー アチャー アミー プイドウ シュール。

「ユー ツツエー」と同じ意味で「ユー ツツァンナレー」も使われる。

5.2.2 連体修飾語

主語、補語、状況語は、連体修飾語で詳しく説明することができる。連体修飾語の主な形としては、a～eの5タイプがある。

a 連体詞＋名詞

- ・ この本：フヌ シュムツイ
- ・ どんな人：イチャール ツチュー
- ・ 有名な人：ナーユル ツチュー
- ・ 去年（去年）：イジャル トウシー
- ・ その本ちょうだい。 ウス シュムツイ トウラシャンネ。
- ・ 島村カナールの妻はトモリ屋という有名な大金持ちの一人娘だった。

シマクラカナール トウジヤ トウムイディチ ナーユル

ツウエツキンチュヌ チュイキナウンゲワ ヤタン。

b 名詞＋の＋名詞

- ・ 人の命：ツチュヌ ツニューチ
- ・ 畳の端：タタヌ バシ

- ・ 東原のおじいさん：アーリバルヌ ウブシュ
- ・ 三釜入り甕の酒：ニハマイリハミヌ サキ
- ・ 世の始まりの人は知恵が弱かったんだろうか。
ユース パジマイヌ ツチューヤ ズインブンヌ ヨーサアタラヤー。
- ・ この話は三代目のご先祖から私の祖父に譲り渡ったんだ。
フヌ パナシヤ サンデーミヌ パーウブジーラ ワー
ウブシュンカイ ユズイーワタタルバー。

c 動詞連体形＋名詞

- ・ 来る人：チュール ツチュー
- ・ ハンジャニーバナという森：ハンジャニーバナディ ツユール ムイ
- ・ 毎日水を汲みに来る所：メーニチ ミズイクニンジャ チュール
トゥーマ
- ・ クバの葉で作られている釣瓶：フバヌ パーシ シュガラティウウル
シー

- ・ 前々からあった作物：ナゲナゲーラ アタル スイクイムン
- ・ 畑に持っていく道具：パルンカイ ムチュル ドーグ

d い形容詞＋名詞

- ・ 大きい井戸：ウピーシャール ハー
- ・ 珍しい道具：テルマーシャル ドーグ
- ・ 高い樹木：タカギー
- ・ 白い鳥：シュードゥイ

e な形容詞＋名詞

- ・ 大変な宝物：デージナ タカラムン
- ・ 不思議な事：プシジナ フトゥー
- ・ 急な上り坂：アッタヌバイ

現代日本語 **d** と **e** のタイプ〈形容詞連体形＋名詞〉は、伊江島方言では複合語の名詞 1 語として表されることが少なくない。上例で言えば、現代日本語 2 語で表現する「高い樹木」や「白い鳥」、「急な上り坂」が、伊

江島方言では1語「タカギー」や「シュードゥイ」,「アッタヌブイ」となる類である。

5.3 独立語

独立語はほかの構成要素と直接結びつかない要素で、感動詞と接続詞がこれに入る。

5.3.1 感動詞

感動詞は話し手の気持ちを直接的に表す語で、感動・驚き・嘆き、呼びかけや応答などがある。

【感情表出】

- ・ あらまあまあ。こんなにもたくさん魚を持たせてくださったのね。
チャビョーイ。フツツアナナ ッユー ムタシンシエルバー。
- ・ あーれまあー。もう大変。何たる子か。
アキチャビョー。ツニャ デージ。ヌーディチャル ックワガ。
- ・ あーあ、昔の人の苦労は話にならない。
アミョー、ンカシリンチュヌ アワレー パナシ ナラン。
- ・ おや、お前はあの子をおほえていないのかい。
アメ、ッラー アヌ ワラビ ウビレー ッツアンニ。
- ・ あっ、冷たい。 アギジャ、ティジュールーサ。

【呼びかけ】

- ・ お姉さん、海へ貝を取りにいこうよ。
マーマ、ウニンカイ ニャー トウンジャ イチャンナ。
- ・ おじいさん、いらっしゃいますかー。 ウプーシュ、イメンシエカヤー。
- ・ おい、どこへ行くんか。 エー、ダンカイ イチョー。
- ・ さあ、お手伝いしよう。 ディー、カシー ッツァー。
- ・ こらっ、畑の中へ入るんじゃない。 エッシャ、パルンカイ インノー。

【受け答え】

- ・ A 当時までは石積垣でしたからねえ。

ウニヤケー イシジャーチドゥ ヤヤビタセーヤー。

B うん、石積垣だった。ツンー、イシジャーチドゥ ヤタル。

・A あなたはご長男でいらっしゃいますか。

ウマー チャクシドゥ ヤンシェリ。

B いや、私は三男。アイ、ワノー サンナン。

5.3.2 接続詞

接続詞は前の語句や文を受けて後の文に続ける働きをする語である。

伊江島方言の接続詞は、「また：マタ」以外は、語頭が「ア」「ウ」「ヤ」のいずれかに始まる語形である。

語頭が「ア」の接続詞

アンシ：そうして・そして

アンシュトウ・アンシャトウ：そうしたら・だから

アンツィバ・アンツエー：そうすれば・そうすると・すると

語頭が「ウ」の接続詞

ウリーラ・ウンチャーラ・ウンチャラーラ：それから

語頭が「ヤ」の接続詞

ヤトウ・ヤタトウ：だから

ヤスイガ・ヤタスイガ：だが・だけど・けれども

「アンシャトウ」と「ヤスイガ」使用の例文を示す。

・ある男が山の木を切り倒して、その木を家に持ってきたそう。そうしたら、その日から男は病気になったって。

アル キキガヌ ヤマヌ キー チートーチ、ウヌ キー

ヤーンカイ ムチチーアル プージ。アンシャトウ、ウヌ

ティーラ キキガヤ ヤンメ ナタンディ。

・牛は沖永良部と伊平屋から来ていた。だけど、伊平屋牛は水質が合わなくてね。

ウシヤ イラプトウ イテャーラ チーウウタン。ヤスイガ、

イテャウシヤ ミズイショヌ アタラスヨ。

6. お わ り に

以上、沖縄伊江島方言の「文の組み立て」について、文の構成要素である述語、主語、補語、状況語、修飾語、独立語の順に、その基本的な使い方を述べた。一応、沖縄伊江島方言の「文の組み立て」の輪郭は明らかにできたかと考えるが、述語の項で〈伝える文〉を通り越して〈尋ねる文〉で説明したことは、わかりにくさを生じさせたのではないかと懸念している。

伊江島方言文法書をまとめるにあたっては、読み手を広くとらえて、誰にもわかってもらえるよう順序良く書き進めていきたいと思う。

参 考 文 献

- 仲宗根政善（1983）『沖縄今帰仁方言辞典—今帰仁方言の研究・語彙篇—』角川書店
国立国語研究所編（1963）『国立国語研究所資料集 5 沖縄語辞典』大蔵省印刷局
高橋太郎他（2005）『日本語の文法』ひつじ書房
児童言語研究会編集（1987）『たのしい日本語の文法』一光社
教育科学研究会・国語部会編（2014）『あたらしいにっぽんご』むぎ書房
<http://www.geocities.jp/niwasaburoo>